

感謝表現としての「助かる／助かった」について

加藤恵梨（大手前大学）
erikato@otemae.ac.jp

【要約】

本研究の目的は、感謝表現としての「助かる／助かった」がいつどのように使われるのかを『現代日本語書き言葉均衡コーパス』をもとに明らかにすることである。感謝を述べる際に「助かる／助かった」が使われている例について、「相手との関係性」と「相手の行為の内容」に注目して分析を行った。その結果、「相手との関係性」については、同等以下の親しい関係にある相手に対して多く使われており、そのような関係にある相手には「ありがとう」とお礼を述べるのではなく、「助かる／助かった」を用いて、相手の行為によって労力や負担が軽減されたことを喜ぶ心情を述べることで感謝を表すことが多いことなどを明らかにした。

1. はじめに

感謝を表す表現にはさまざまなものがある。これまで先行研究では、感謝表現として「ありがとう（ございます）」「すみません」「どうも」などが取りあげられ、特に、感謝と詫び表現との関係についての研究が多くなされてきた（熊取谷（1991、1994）、岡本（1992）、西原（1994）、三宅（1993、1994）など）。本研究では、感謝表現の中であまり取りあげられてこなかった「助かる／助かった」に注目し、誰が誰に対してどのような状況で使うことが多いのか、その際どのような心情を表すのかを『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究の記述

感謝表現としての「助かった」に言及しているものに森山（2003）がある。森山（2003）は、「助かった」は「関係認定の表現」であるとし、「関係認定の表現」とは相手から恩義を得たことを示すことであると述べている（p. 175）。具体的に、次の(1)を挙げて説明している。

- (1) 「そうか、行ってくれるか、それで助かったよ。豪華な酒盛りをふいにするところだったよ。
俊平君あやうくセーフだね」 （p. 173）

(1)について森山（2003）は、「ありがとう」といったお礼の言葉はないものの、少なくともそれによって助かったという関係の認定はなされ、結果的にお礼の表現になっている。しかし、単なる関係の認定にとどまる点で、いわゆる「負い目」を感じているという心情の表現にはなっておらず、お礼の表現としては最低条件しか満たしていないと述べている（p. 173）。その上で、お礼の言葉を述べる場合には、「どのようにありがたかったかという心情やいかに助かったかという事情などしっかり述べることが大切」（p. 175）と主張している。なお、「ありがとう」については、恩義に対して、もったいない、尊いという感情が現在の「ありがとう」の語源であり、もったいないとは、相手がしてくれたこ

とに対して、当然のことだという扱いをしないことであると述べている (pp. 171-172)。

上述のように、「助かった」のような「関係認定の表現」は、相手から恩義を得たことを認定するにとどまり、「負い目」を感じているという心情の表現にはなっていない。そのため、使い方によっては失礼な言い方になる可能性がある。では、どういうときに「助かる／助かった」が使われるのだろうか。その点について明らかにする必要がある。

3. 「助かる」の意味

分析の前に、国語辞典で「助かる」の意味を確認する。以下では、現代語の意味が詳細に記述されている『大辞林 第四版』と『新明解国語辞典 第八版』を取りあげる。

たすかる【助かる】

①危険・困難・死や被害・災難などを免れる。

「あやうい所を一・る」「事故に遭ったが幸い命は一・った」「後生ヲ一・ル／日葡」

②労力・負担・苦痛・費用などが少しですむ。楽になる。

「罰金を払わないですんで一・った」

「相手の助力によって自分の負担などが少しですむことから、その相手に対する感謝の気持ちを表すこともある。「君が手伝ってくれて、本当に一・った」」

(『大辞林 第四版』、p. 1673)

たすかる【助かる】

㊦悪くすると死ぬおそれのある危険な状態からまぬかれる。

「もう少しで溺れるところを助かった」

㊧負担・苦痛などが無かったり少なかったりして、楽である。

「月にせめて十万円あると一のだが／暑さがやわらいで一」

運用 「助かった」などの形で、相手の援助・協力などに対する感謝の気持を表わすのにも用いられる。例、「手伝っていただいて、お陰で助かりました」

(『新明解国語辞典 第八版』、pp. 947-948)

上の二つの辞書の記述から、「助かる」には大きく二つの意味があることがわかる。一つは危険な状態から免れるという意味であり、もう一つは労力・負担・苦痛・費用などが無かったり少しですんだりして、楽であるという意味である。本研究でも辞書の記述に従い、「助かる」にはこれら二つの意味があると考え。しかし、「助かる」にはそれだけではなく、そのような状態を喜ぶという心情が含まれている。次の(2)から(4)を見てみよう。

(2) 「大丈夫ですよ、すぐに治まりますからね」

息を絶えだえに喘ぐ女性の口に、私は〈生命素〉を落とし入れてやった。すると、それが患者さんの喉を通ったと思われた途端に苦悶の表情がすう一と消えた。安堵の表情が浮かぶ。私は黙ったまま患者さんが口を開くのを待つ。こんなとき、こちらから「どうですか」などと聞くは愚。患者さんが何と言うか、その第一声が真実を語る。

「あー、助かりました…」 (PB44_00305 小林原圭『生命素』文芸社)

- (3) 月2回が「家庭週休2日」になり、前日の金曜日はゆったりできる。この日ばかりはだんらんが遅くまで続き「溜め込んだビデオも早送りしないで見られる」と学校5日制をよろこんでいる。試験前になると勉強を教え合ったり、クリスマスが近づくとホームコンサートの練習時間にもなる。母親のKさんは「精神的にゆとりがもてるせいか、家の手伝いもしてくれて助かっている」と家庭でのふれあいをよろこんでいる。

(LBg3_00083 高城修身『子どものための学校5日制』ぎょうせい)

- (4) 俺が悩んでいたことがあって、それを何気なく話したら、長瀬が俺のために、ある行動をしてくれた。俺はそれですごく助かった。救われたよ。

(PM51_00784 堂本光一『a n ・ a n』マガジンハウス)

まず(2)は、呼吸がうまくできない患者が医者処置により呼吸ができるようになったことで、「助かりました」と言っており、危険な状態から免れ、喜ぶ心情を表している。続いて(3)の「助かっている」は、子どもが家のことを手伝ってくれるので、家事にかかる労力が減ったことを喜んでいることを表している。さらに(4)は、ある人(長瀬)の行為によって精神的に救われ、喜んでいることを「助かった」と表現している。このように、(2)から(4)の「助かる／助かった」は、危険な状態から免れたり、労力や精神的負担などが無かったり少しですんだりして、楽であることを喜ぶ心情を表している。

また、上述のそれぞれの辞書に、「助かる」は「相手の援助・協力などに対する感謝の気持を表わす」のに用いられるとあるように、辞書でも感謝表現としての「助かる」について言及している。「助かる」が危険な状態から免れたり、労力や精神的負担などが無かったり少しですんだりして楽であることを喜ぶ心情を表すため、人に「助かる／助かった」と言うと、感謝を表す表現になると考えられる。では、どのようなときに「助かる／助かった」という感謝表現を用いるのであろうか。以下では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』をもとに、感謝表現としての「助かる／助かった」について分析する。

4. 感謝表現としての「助かる／助かった」

以下では、まず「助かる／助かった」が「ありがとう」とともに使われる場合を見る。その後、「助かる／助かった」が単独で使われる場合について分析する。

4.1 「助かる／助かった」が「ありがとう」とともに使われる場合

感謝表現として「助かる／助かった」が使われる場合、「ありがとう」などの表現とともに使われることが最も多い。次の例を見てみよう。

- (5) ぼくは、ジーンズの汚れを草でふいていた手を止め、顔をあげた。こっちから先にひとこと言ったほうがいいだろう。

「ありがとう。おかげで助かったよ、弟もぼくも」

「わかっている」ローズはピカピカの薬莢をけとばした。

「貴重な弾薬をむだにってしまった」

(LBcn_00005 ロバート・スウィンデルズ『弟を地に埋めて』福武書店)

(5)は身の危険から救ってくれた相手（ローズ）に対して「ありがとう。おかげで助かったよ」と礼を述べている。具体的にどのように感謝しているのかを説明するために「助かった」を用いており、「ありがとう」と言うだけよりも相手に感謝の気持ちが伝わりやすい。森山（2003）はお礼の言葉を述べる場合には、「どのようにありがたかったかという心情やいかに助かったかという事情などしっかり述べることが大切」（p. 175）と述べていたが、「助かる／助かった」という表現を用いることで、あなたのおかげで危険な状態から免れたり、労力や精神的負担などがなかったり少しですむということを相手に伝えることができる。よって、「ありがとう」だけではなく、「助かる／助かった」を用いてお礼を述べたほうが、より心のこもった感謝表現となる。

4.2 「助かる／助かった」が単独で使われる場合

次に、感謝を述べる際に「助かる／助かった」のみが使われている例を見る。その場合、「相手との関係性」と「相手の行為の内容」という点に注目して分析を行う。

4.2.1 相手との関係性

以下では誰が誰に「助かる」と言うことが多いのかに注目し、どのような関係にある相手に対して「助かる／助かった」が使われるのかを見ていく。

(6) 月梅は、トランクの中に下着類からワイシャツ、靴下、替えズボン、黒い布靴、洗面用品をきちんと詰め、「これで旅行用品は全部、整ったわ、書類と本はあなたが選り出したのを反対側に並べておきましたけど、最終的に自分で見て下さいね」と云った。

「何から何まで、すっかりやってくれて助かったよ、本の方はこの一冊を追加するだけにする」

(0B4X_00059 山崎豊子『大地の子』文芸春秋)

(6)は夫が妻（月梅）に「助かった」と言っている。「ありがとう」などの表現はないが、「何から何まで、すっかりやってくれて助かったよ」とあるように、相手の行為によって負担が軽減されたことを喜ぶ心情を述べることで、夫が妻の行為をねぎらっている。

(7) 健太はこのレジスターと相性が悪いのかも知れない。以前にもキーを押し間違えて、レシートをどこまでも出し続けたことがある。苦手意識が強まったのか、健太はもう百円玉を引き出しに入れようとはせず横に置いてレジの前を離れ、ほっとした顔のまま果林を見やった。

「真紅が来てくれて助かったよ」

「あ、ううん…あたしこそ」礼を言われて果林はうつむいた。

(PB39_00376 甲斐透『かりん増血記』富士見書房)

(7)は健太が仲の良い友人である真紅に「助かった」と言っている。健太がレジスターの扱いが分からず困っていたところ、真紅が操作方法を教えてくれたおかげで問題が解決したことに礼を述べている。(7)においても「ありがとう」などの言葉はないが、「真紅が来てくれて助かったよ」とあるように、相手のおかげで問題が解決し、苦痛から解放されたと述べることで感謝の気持ちを伝えている。

(8) ソファに座ったままの優介はもう一度頭をかかえて髪を何度もかきあげ、広い肩を揺らして大きなため息をついた。

「ごめんね、突然取り乱したりしちゃって」

「おたがいさまよ」

麗火は少し離れた場所に立ったまま告げた。

「あたしも宏のときにはあなたにお世話になったし」

「そう…、そう言ってくれると助かるよ」

(LBq9_00042 伊島りすと『飛行少女』角川書店)

(8)は、優介が仲の良い友人である麗火に「助かる」と言っている。突然取り乱したことを優介は気にしていたが、麗火が「おたがいさまよ」と言ってくれたことで、気が楽になったと感謝する気持ちを「助かる」を用いて表している。

(9) 全員 おはようございます。

教師 おはようございます。今朝も朝自習はみんなきちんとできましたか。職員室でも有名ですよ。このクラスは自主性があるって。

ピエロA はい先生。みんな静かに自習できました。それぞれどれだけ進んだか発表します。僕は四ページ進みました。

教師 流石、安藤君、学級委員がしっかりしてるから助かるわ。

(LB1n_00024 山本茂男『中学校劇1年』小峰書店)

(9)は、教師が学級委員である生徒（安藤君）に対して「助かる」と言っている。学級委員がしっかりしているので、自身の労力や精神的負担が減ることを喜んでいと伝えることで、生徒の普段からの行いに感謝を述べている。

上で見た(6)から(9)では、夫から妻、仲の良い友人から友人、教師から生徒というように同等以下の親しい関係にある相手に「助かる／助かった」と言っている。親しい間柄にある相手に対しては「負い目」を感じていることを表現する「ありがとう」などの言葉ではなく、「助かる／助かった」を用い、相手の行為によって労力や負担などが軽減されたことを喜ぶ心情を述べることで感謝の意を表している。

4.2.2 相手の行為の内容

次に、相手がどのような行為をしたときに「助かる／助かった」とお礼を言うことが多いのかを見ていく。

(10) 「注文リストは作ってくれた？」

「ええ、やってあるわ」

正直なところ、芳恵は、店での客の応対より、奥で書類を作ったりしている方が、気が楽なのである。

「助かるわ。私、そういうの、苦手だから」

と、典子は言った。

「妙ね。一私なんかおよそお客の相手なんて、下手だと思ってたのに」

「やってみないと分からないものかもしれないわね。一あ、十二時半ね。どうぞ、お食事」

「たまには一緒に食べましょうよ」と、典子は言った。

(LBf9_00132 赤川次郎『二階の沈黙』角川書店)

(10)は、苦手な書類作りの仕事を相手（芳恵）がやってくれたことに対して、典子が「助かる」と言っている。ここでは、芳恵が本来すべき仕事を典子が、典子が本来すべき仕事を芳恵がやっており、どちらかが相手に負い目を感じるという状況ではない。そのため「ありがとう」ではなく、苦手なことをやってくれたことで精神的負担を感じなくてすんだということを「助かる」を用いて述べることで、感謝の意を伝えている。

(11) 「そうですね。女のアパートだけではなく、その近所にも当らせましょう。光次郎の写真はありますか？」と、時枝は聞いた。

「ああ、写真はすぐに電送します。ついでに言いますと、光次郎は身長が百七十二、三センチ、筋肉質でスポーツマンタイプのからだをしています。服装に凝る方で、靴なんかもイタリー製だと言っていました。とにかく、電話に出たのが時枝さんで助かりましたよ」室田は礼を言っ
て電話を切った。(LBd9_00066 佐野洋『巡查失踪』新潮社)

(11)は、室田が仕事仲間である時枝に、「電話に出たのが時枝さんで助かりましたよ」と礼を言っている。室田は仕事のことで職場に電話をしており、時枝が電話に出てくれたことに負い目を感じる必要はない。しかし、電話に出たのが時枝であったため、仕事の話がスムーズに進み、仕事の内容の詳細について説明する労力が少しですんだことを「助かった」と述べている。

(12) ムラマツは組織作りに、岩本は機体開発および設備全般にと、それぞれ最高責任者としての任務に励んでいた。

「うむ、科特隊の作戦に関わることで、私の一存では…、と考えてね。どうだろう、もう一つ機体を造っては？」

「助かります。ですが、よろしいのですか？」

「権限は私にあるから、それはかまわないんだが、何か希望はあるかね？」

「となると、大きな機体か、逆に小さな機体か、ということになりますな」

(LBi7_00041 浜由葵夫『科学特捜隊・ウルトラ警備隊』原書房)

(12)は、相手（岩本）の「もう一つ機体を造っては」という提案に対して「助かります」と答えている。ムラマツと岩本は仕事の話をしており、岩本はムラマツが所属する部署にとって有益な提案をしているのであるが、それは会社にとっての利益につながるもので、ムラマツが岩本に負い目を感じる必要はない。よって、ここでは、岩本の提案を受け入れることで労力などが減ることに対する感謝を述べるのに「助かる」を使っている。

上の(10)から(12)は、相手が話し手のために一方的に何かをしてくれたという状況ではないため、相手に負い目を感じる必要はない。よって、「ありがとう」などの表現は用いられていないが、相手の行為によって自身の負担などが減ったことに対する感謝を述べるのに「助かる」が用いられている。続いて次の例を見てみよう。

(13) タバコを雑にもみ消して腰を浮かし、ポケットに片手を入れたまま会議室に入る。

無事に終わった？「まあなんとか」目が合った麗香は、笑顔を返してきた。

「いやーっ、小野さん、今日は本当に助かりました。彼女には答えにくいことまで喋っていただいて…」くだんのディレクターが割り込んでくる。

(LBn3_00065 小野一光『東京二重生活』集英社)

(13)は、ディレクターがインタビュー（麗香）を紹介した小野に対して「助かりました」と言っている。ここでの「助かりました」は、小野が麗香を紹介してくれたおかげで、インタビューを探すなどの労力をかけずに、インタビューを成功させることができたことへの感謝の気持ちを表している。このように、インタビューを成功させるという話し手の目的の達成に力を貸してくれた相手に対し、「助かった」を用いて礼を述べているのである。

(14) 「先生、たいへん、早くきて！」いつも落ちついているジュン子やアツ子がひどくあわてている。先生は、ジュン子たちのあとをおって、かいだんをかけあがった。

「キミカズ！」なんと、教室にはキミカズがいたのだ。それも、ちゃんと王様のかっこうをして。

「だいじょうぶなのか…」あとは、先生もことばにならない。

「ほんとうに、ご心配をおかけして」キミカズのおかあさんが、深ぶかと頭をさげた。

「ほんとうは、かえってごめいわくになってはと、きょうも休ませるつもりでおりましたのですが、どうしてもキミカズが…」

「いやあ、おかあさん、たすかりました。なあに、少々まちがえたって、かまいませんよ」先生は、しんそこホッとしたようすだ。

(LBcn_00023 藤田のぼる『山本先生ほんばんです』岩崎書店)

(14)は、生徒（キミカズ）の母親に対して、教師が「たすかりました」と言っている。ここでは、病気で休んでいたキミカズが劇の発表会当日に登校してくれたことで、教師である話し手がキミカズの代役をしなくても良くなったため、キミカズの登校に助力してくれた母親に感謝の気持ちを表している。

上で見た(13)と(14)は、話し手が望む結果になるよう、力を貸してくれた相手に対して「助かる／助かった」を用いて礼を述べている。

以上のように、相手が話し手のために一方的に何かをしてくれたという状況ではない場合や、話し手の望む結果となるように相手が力を貸してくれた場合には「助かる／助かった」という表現を用い、相手の行為によって自身の労力や負担などが減ったことへの礼を述べることが多い。

最後に、話し手が相手に心から感謝しているときにも「助かった」という表現のみを用いてお礼を

言っている例と、相手に感謝の気持ちをあまり感じていないものの「助かる」を用いてお礼を言っている例を見る。

(15) 女は、体をかたむけて助手台のドアを押し開けた。私は、ヘッドライトの前をまわって助手台のドアに手をかけたが、座席を濡らせてしまうことに気づき、

「体が濡れているのですが…」と、言った。

「かまわないよ。すぐ乾くから」

女は、少しも頓着しないように答えた。私は助手台に身を入れ、ドアを閉めた。車が動き出した。

「助かりました。この暗さと雨で困っていました」私は、女に頭をさげた。

女は、黙ってハンドルを手にしていたが、「どこから来たの」と、前方に眼をむけたままたずねた。

「東京からです。人を訪れましてね」ボンネットに雨水がしぶきをあげ、ワイパーがきしんだ音をさせて動いている。車に乗せてもらえたことに深い安堵を感じ、「助かりました」と、再び言った。 (PB39_00031 吉村昭『天に遊ぶ』新潮社)

(15)は、見知らぬ土地で雨の中、移動手段がなく佇んでいたところ、通りかかった車の運転手が最寄りの駅まで乗せて行ってくれることに「助かりました」と言っている。ここでは、「助かりました。この暗さと雨で困っていました」と述べているように、あなたのおかげで危機的状態から免れたということを手伝った相手に伝えることで、深く感謝する気持ちを表している。また、(15)では再度「助かりました」と言っており、その表現の前に「車に乗せてもらえたことに深い安堵を感じ」と説明されている。深く安堵するということは、そのような状況に導いてくれた相手に感謝しているという心情のあらわれであり、ここでの「助かりました」が相手への深い感謝を表していることを示している。(15)のように、「ありがとう」などの表現がなくとも、「助かる／助かった」という表現のみで見ず知らずの相手に深い感謝を表す場合もある。その場合には、自身が非常に困った状態にあることを説明し、あなたのおかげで危機的状態から免れたということを「助かる／助かった」という表現を用いて説明することで、深い感謝の意を表している。

(16) 「実は、金の必要ができたので三十万円ばかり出してもらいたいが…」と切り出した。狡猾な野馬は綱を引き始めたのである。

「はあ…」何かあるかとは予想していたが突然金ときかされた猪熊は、それが教頭職の取引代金であるのかと察した。そして、今大切な教頭職は金銭に替えられないと、酔の廻ってきた頭で考えた。

「校長先生が必要であればお出しいたします」

猪熊の言葉に野馬はほっとして、この計画の成功を喜び笑みを浮かべた。

「いや、助かります。それでは一つお願いいたします」と言いながら猪熊の杯にさらに酒を注いだ。 (PB23_00369 小村剛史『あなたはどちら？尊敬される校長敬遠される校長』健友館)

(16)は、「三十万円ばかり出してもらいたい」という申し入れを受け入れてくれた相手(猪熊)に「助

かります」と言っている。ここでは、相手が三十万円を出すと言ったことで、自身の労力や負担などが減ったことに感謝するというよりも、申し入れを相手を受け入れてくれたことに対して安堵する気持ちを「助かります」を用いて述べている。ここでの「助かります」もお礼の表現だが、話し手が困った状況にあり、それが相手のおかげで免れたといったことを伝えるのではなく、話し手の求めに応じて相手が行動してくれたことに安堵したり喜んだりする気持ちを「助かる」と表現することで、結果的に感謝の表現とみなされている。そのような場合には、形ばかりのお礼であることが伝わり、形式的な感謝表現となっている。

5. おわりに

本研究は、感謝表現の中であまり取りあげられてこなかった「助かる／助かった」に注目し、誰が誰に対してどのような状況で使うことが多いのか、その際どのような心情を表すのかを『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて明らかにした。

まず、「助かる」は危険な状態から免れたり、労力や精神的負担などが無かったり少しですんだりして、楽であることを喜ぶ心情を表すとし、「助かる」がそのような意味を有するため、相手に「助かる」と言うことで感謝を表す表現になることを述べた。

次に、感謝表現としての「助かる／助かった」を分析した。その結果、最も多いのは「ありがとう」などの表現とともに使う場合であり、「ありがとう」と礼を述べた後、具体的にどのように感謝しているのかを説明するのに「助かる／助かった」を用いることで、相手に感謝の気持ちが伝わりやすいことを指摘した。次に、感謝を述べる際に「助かる／助かった」のみが使われている例について、「相手との関係性」と「相手の行為の内容」に注目して分析を行った。一点目の「相手との関係性」については、同等以下の親しい関係にある相手に多く使われていることが分かった。同等以下の親しい関係にある相手に対しては「負い目」を感じていることを表す「ありがとう」などの言葉ではなく、「助かる／助かった」を用い、相手の行為によって労力や負担などが軽減されたことを喜ぶ心情を述べることで感謝を表すことが多い。二点目の「相手の行為の内容」については、相手が話し手のために一方的に何かをしてくれたという状況ではない場合や、相手の行為が目標の達成や危機的状態の回避に間接的に役立つものである場合に「助かる／助かった」という表現を用い、相手の行為によって自身の労力や負担などが減ったことへの礼を述べることが多いことが分かった。

今後は「助かる／助かった」以外の感謝表現についても分析し、感謝表現が使われるとき、誰が誰に対してどのような状況で使うことが多いのか、その際どのような心情を表すのかを分析し、感謝表現の使い分けについて明らかにしたいと考える。

参考文献

- 岡本真一郎 (1992) 「感謝表現の使い分けに関与する要因 (2) —『ありがとうタイプ』と『すみませんタイプ』はどのように使い分けられるか」『愛知学院大学文学部紀要』22, pp.35-44.
- 熊取谷哲夫 (1991) 「日本語における『感謝』の談話構造と表現配列—『すみません』と『ありがとう』の場合—」『広島大学日本語教育学科紀要』1, pp.61-67.
- 熊取谷哲夫 (1994) 「発話行為としての感謝—適切性条件、表現ストラテジー、雑話機能」『日本語学』13-8, pp.63-72.
- 西原鈴子 (1994) 「感謝に関する一考察」『日本語学』13-8, pp.4-9.

松村明（2019）『大辞林 第四版』三省堂

三宅和子（1993）「感謝の意味で使われる詫び表現の選択メカニズム：Coulmas(1981)の indebtedness 『借り』の概念からの社会言語的展開」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』8, pp.19-38.

三宅和子（1994）「『感謝』と『詫び』における発話者の視点：付加表現の使われ方:日英比較」『日本語教育方法研究会誌』1-2, pp.20-21.

森山卓郎（2003）『コミュニケーション力をみがく：日本語表現の戦略』NHK ブックス

山田忠雄・倉持保男・上野善道・山田明雄・井島正博・笹原宏之（2020）『新明解国語辞典 第八版』三省堂

関連 URL

コーパス検索アプリケーション『中納言』<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>